



iMAR!

Press Release

佐賀県 伊万里市

〒848 - 8501

佐賀県伊万里市立花町1355-1

Tel 0955-23-2111 (代表)

Fax 0955-23-6113 (代表)



報道関係者各位

令和7年4月11日

【国内初】水産養殖管理協議会（ASC）飼料基準認証取得にかかる 市長表敬訪問について 訪問者：スクレッティング株式会社

スクレッティング株式会社伊万里工場（山代町）が、国内で初めて水産養殖管理協議会（ASC）の飼料基準認証を取得されたことを受け、下記のとおり認定証書の授与式及び市長への表敬訪問が行われます。

1. 水産養殖管理協議会（ASC）認定証書の授与式について

- （1）日 時 令和7年4月16日（水）午後1時
- （2）場 所 伊万里市役所4階 記者室
- （3）内 容 スクレッティング株式会社への認定証書の授与

2. 市長表敬訪問について

- （1）日 時 令和7年4月16日（水）午後1時30分
- （2）場 所 伊万里市役所3階 第2応接室

3. 訪 問 者

- （1）スクレッティング株式会社
代表取締役社長 朴 基顕（パク キヒョン）氏 他3名
- （2）DNV・ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
緒方 心太郎（オガタ シンタロウ）氏（予定）
- （3）ASC ジャパン
ジェネラルマネジャー 山本 光治（ヤマモト コウジ）氏

4. 水産養殖管理協議会（ASC）について

WWF（世界自然保護基金）と IDH（オランダの持続可能な貿易を推進する団体）の支援を受け、2010年に設立された国際的な非営利団体。

ASC 認証は、水産養殖向けの持続可能な飼料の基準を定めた認証制度。環境や社会への配慮を重視し、責任ある原材料調達や製造過程の管理を求めることで、水産業の持続可能性を高めることを目的としている。



プレスリリース <報道関係者各位>

2025 年 4 月 7 日

スクレッティング株式会社

ASC ジャパン（水産養殖海洋管理協議会）

日本&東アジア初 ASC 認証飼料工場の誕生 ～魚が消える未来を防ぐために～

スクレッティング株式会社は、2025 年 2 月 21 日、**日本で初めて ASC（Aquaculture Stewardship Council）飼料基準の認証を取得**いたしました。これは東アジア地域における初の快挙であり、日本の水産業界にとって大きな転換点となります。

■ 水産業界の課題（現状とリスク）

過去 50 年で世界の水産物の漁獲量は 2 倍以上に増加し^{*1}、世界人口の増加や新興国の経済発展とともに、魚は良質なたんぱく源として欠かせない存在となっています。しかし、乱獲や温暖化の影響により、日本を含む世界各地で水産資源の持続可能性が懸念されています^{*2}。漁獲量の減少や魚種の多様性の喪失が進むなか、未来の水産物供給を支えるカギとなるのが「養殖」です。

2023 年には、世界の水産物生産量のうち約 6 割が養殖によって賄われるようになりました^{*3}。日本では 1984 年をピークに漁業生産量が減少し続けており、日本の水産物生産量のうち養殖が占める割合は約 24%で^{*4}、資源の枯渇が懸念される中で、「とる漁業」から「つくる漁業」へのシフトが進みつつあります。

しかし、養殖で使用される飼料には、マイワシなど天然由来の魚粉が含まれており、資源としての漁業に依存しています。また、日本の食卓や養殖を支える年間 200 万トン以上^{*5}の輸入水産物のうち、最大で 36%が IUU（違法・無報告・無規制）漁業由来である可能性が指摘されており^{*6}、資源管理や人権配慮を欠いた調達リスクが存在します。

私たちが日々口にする水産物が、「どこで、どのように」生産・流通されているのか、原料の出どころを明らかにするトレーサビリティの確保と責任ある調達が水産業界全体に求められています。持続可能な水産業の未来を守るために、養殖の発展とその透明性向上への取り組みが企業や消費者にとってますます重要になると考えています。

■ ASC 認証がもたらす変化

ASC 認証は、環境と社会に配慮した責任ある養殖方法で生産された水産物を対象とする国際認証制度であり、SDGs（国連の持続可能な開発目標）の達成に貢献していることも注目され、近年、世界各国で認証取得が進み、持続可能な水産業への関心が高まっています。ASC の認証を受けた飼料は、労働環境の整備、児童労働や強制労働の排除を徹底した社会的責任を果たすサプライヤーおよび生産者から供給されます。また、絶滅危惧種の

使用禁止や森林破壊の回避など、環境および社会的に適切な方法で製造された原料であることが証明されたものを使用します。

■ 消費者の参画

消費者が ASC 認証の水産物を選ぶことは、持続可能な水産業界の構築の支援につながります。持続可能なシーフードが選ばれるほど、業界全体が環境や社会的責任を考慮した生産へとシフトしていきます。消費者の選択の積み重ねが、水産業界の持続可能な発展を後押しします。サステナブルな未来を築くためには、企業の努力だけではなく、消費者の意識的な選択も欠かせません。そのために生産者側にある我々は説明責任や供給責任を果たす一つの手段として ASC の認証取得に至りました。ASC 認証飼料を使用した養殖業者は、環境負荷の少ない水産物を生産し、消費者に「持続可能な選択肢」を提供できます。「どんな魚を食べるか」という日々の選択が、水産業界の未来を左右します。

■ 養殖魚の食べる飼料とは

飼料は、主にマイワシなどの小魚を原料とした魚粉・魚油や、小麦・大豆などの植物由来原料から構成されています。しかし漁獲される小魚の漁獲量は一定または減少傾向にあり、世界的な人口増加に伴い、養殖業だけでなく畜産業での需要が高まる中、これらの原料はますます貴重な資源となっています。

また、漁獲に関しては、違法漁獲（IUU）や現代の奴隷労働といった社会的な課題が指摘されています。植物由来原料の一つである大豆についても、ブラジルのアマゾン熱帯雨林破壊の問題があり、環境への影響が懸念されています。こうした背景から、飼料の原料におけるトレーサビリティは、持続可能な水産養殖を考える上で極めて重要な要素となっています。

■ サステナブルシーフードを支える企業の挑戦

スクレッティング株式会社は、20年以上に渡り、持続可能な水産業界の実現を目指し、責任ある原料調達や環境に配慮した製品開発に積極的に取り組んでいます。

原料の責任ある調達に取り組むことで、魚粉のもととなる小魚の漁獲領域や製造工場などの情報を確認。環境負荷では、貴重資源である魚粉の使用量を低減する取り組みを続けており、2010年に業界初の低魚粉飼料を開発し業界をリードしています。この他、サステナブルという概念を業界にいち早くもたらし、サステナビリティレポートを発行する唯一の水産飼料メーカーでもあります。これからも研究開発を通じて、環境負荷低減を視野に入れた飼料の開発、魚粉に依存しない代替原料を使用した飼料の開発、AMR 問題に向けた魚の健康を考えた栄養ソリューションなどに取り組んでいます。



<代表者のコメント>

朴 基顕（スクレッティング株式会社 代表取締役社長）

「ASC 飼料認証の取得は、当社のパーパスである『Feeding the Future』という理念を体現するものです。これは、増加する世界人口に持続可能かつ責任ある方法で食を提供することを意味しています。この認証は単なるゴールではなく、より持続可能な未来への第一歩です。今回の成果を支えたチームに誇りを持つとともに、日本の水産業界が国際基準により一層近づくきっかけとなることを願っています。」



山本 光治（水産養殖管理協議会（ASC ジャパン）ゼネラルマネージャー）

「スクレッティング・ジャパンが国内で初めて ASC 飼料認証を取得したことは、日本の養殖業における持続可能な取り組みをさらに推進する重要な節目となります。ASC 認証養殖場にとって、2025 年 10 月 31 日の適合期限に向けた対応が求められる中、ASC 認証飼料の使用は重要な要素となります。スクレッティング・ジャパンの取り組みが、持続可能な飼料生産の普及を促し、日本の養殖業全体の発展につながることを期待しています。」



<参加組織>

■ASC ジャパン（水産養殖管理協議会）<https://jp.asc-aqua.org/>

ASC（水産養殖管理協議会）は、環境や地域社会や人々に配慮した、責任ある養殖により生産された水産物を対象とする国際的な認証制度です。2025 年 3 月現在 ASC 水産物を扱う COC 取得企業は世界で 3,068 社（国内は 198 社）、ASC 商品は 28,913 商品（国内 682 商品）あります。ASC ラベルは、消費者の方々にその商品が責任ある方法で生産された水産物であると知らせる力強いメッセージとなります。

■スクレッティング株式会社 <https://www.skretting.jp>

養殖飼料の製造販売を手掛けるグローバルカンパニーで、世界 17 か国で約 200 万トンの、60 種類以上の魚やエビの飼料を製造しています。日本では、福岡県福岡市に本社を置き、佐賀県伊万里市の工場で主にブリ、マダイ、カンパチ、サーモン飼料を手掛けています。業界で先駆けてサステナビリティに取り組み、責任ある原料の調達から飼料づくりまでサステナブルを軸に産業の発展に取り組んでおり、近年では ASC 認証取得に向けたお客様のサポートも実施しています。

<本件に関するお問い合わせ>

ASC ジャパン（コミュニケーション：川田）

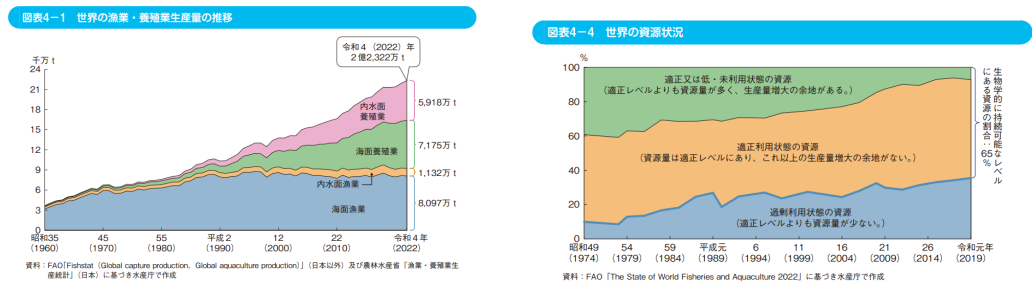
Naomi.kawata@asc-aqua.org

スクレッティング株式会社（コミュニケーション：永本）

satomi.nagamoto@skretting.com Tel 092-432-1301

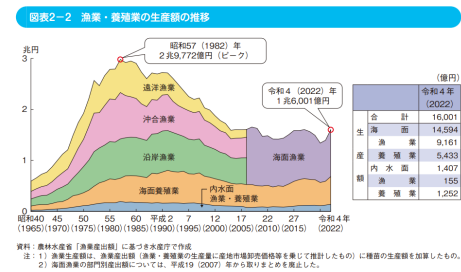
出典

*1, *2 令和5年度 水産白書 第4章水産業をめぐる国際情勢

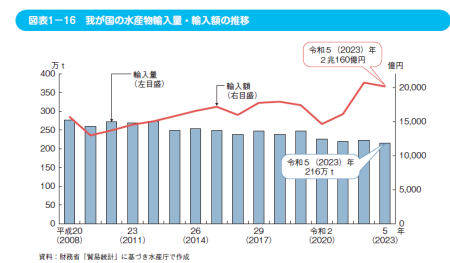


*3 水産経済新聞2025年4月7日 2023年の世界水産物生産量は2億2790万トンに

*4 令和5年度水産白書 第2章 我が国の水産業をめぐる動き



*5 令和5年度 水産白書 第4章水産業をめぐる国際情勢



*6 Pramod Ganapathiraju, Tony J. Pitcher, Gopikrishna Mantha (2019) Estimates of illegal and unreported seafood imports to Japan, Marine Policy: Vol108, Oct.